

# 民報 ゆうばり

# 道知事選挙国と地方の関係が争点

# 野党統一候補 住民自治を守る石川氏に！

## 市民と野党の統一候補 石川知裕氏で住民自治を！

2月8日、日本共産党北海道委員会は、石川氏を推薦。「市民の風・北海道」、するにあたり、立憲民主党、国民民主党、社民党などと協議し、あらためて知事選挙勝利へ一致結束してたたかうことを確認し、石川知裕氏に立候補を要請しました。

私たちは、石川氏を推薦、わが党も加わる「明るい革新道政をつくる会」が発表している「4つの共同目標」(左図参照)で合意し、特に焦点となる『カジノ誘致反対』、『脱原発』、『鉄路を守る』、『脱原発』



### 共産党も加わる「明るい革新道政をつくる会」で確認した『4つの共同目標』

- ① 憲法9条改定に反対し、憲法を道政に活かす
- ② 貧困・格差をなくし、福祉・教育の充実、まともな雇用を守る
- ③ 農林漁業・中小企業を大切に、地域経済を守る。鉄道を公共交通の要として存続させる
- ④ 原発のない北海道、再生可能エネルギーで地域づくりをすすめる、安心な未来をつくる

「公民権停止問題」についての道民に対しての「反省の言葉」も確認しました。日本共産党北海道委員会は、「市民と野党の共闘」を構成する政党、団体、個人と力を合わせて、安倍政権の下請け機関となつている公道政の転換に全力をあげます。安倍政権はいま、ウソと偽りの政治にまみれ、

## 「カジノ誘致反対」「鉄路を守る」「脱原発」



も合意しました。

国会を愚弄する強権政治をいつそう強めていきます。憲法9条改憲に固執し、「専守防衛」の建前すら投げ捨て、大軍拡に突きすすみ「戦争をすすめる国づくり」にむけて暴走しています。

## 「市民と野党の共闘」をさらにめざし全力！ 石川知裕氏の必勝をめざし全力！

今年おこなわれる二つの選挙戦は、フアシズムへの歴史逆行を許さない日本の命運がかかった一大政治戦であり、「安倍

より最高裁から執行

政治への国民の審判を下す選挙」です。北海道知事選挙で、「市民と野党の共闘」が成立し、自公道政転換の旗印をかかげてたたかい、勝利することができれば、参院選における野党共闘の前進にともなっても大きな条件を切り開くことになり

猶予・公民権停止3年の判決が下された問題について、記者会見で「司法判断が下されたことを重く受け止め、自らの不徳の致すところと自らを戒めており、述べてきました。

道常任委員会は、石川氏の発言を偽りのない言葉として信頼するとともに、石川氏が17年総選挙や昨年の帯広市議補欠選挙などで、「市民と野党の共闘」の重要性を理解し、わが党関係者とも信頼関係をつくるために尽力していることを評価しています。

安倍政治直結の道政に終止符を打ち、「道民が主人公」の新しい道政をつくるために、「野党共闘」で新しい道政を実現するとともに、自公道政を厳しく追求し道民の願い実現の先頭にたち、「野党共闘」の前進に力を尽くす日本共産党の躍進のために全力をあげる決意です。



### 野呂栄太郎没後85周年碑前祭と講演会「現代と野呂栄太郎の時代」 講師：横路孝弘(元衆議院議長・弁護士)

2月19日野呂碑 その後、福祉センター小公園で、野呂栄太郎「りふれ」で『現代と野呂栄太郎の時代』と題した記念講演会が午後1時半開催されました。60余名の参加者

この中で長沼町長、を前に、元衆議院議長、岩見沢市長、長・弁護士横路孝弘氏、「母は野呂栄太郎の妹で現在103歳になる。小学生のころ、「ああ無情」や「巖窟王」を薦められ、弱い人を助け、「正義を実現すること、栄太郎は何も悪いことはしていない」という母の思いが、弁護士士の道に進むきっかけになった。

「いま安倍政権に對しはつきりものを言う人がいなくなつた。教育基本法の改変や道徳教育の強化安民法制化で特定秘密法、共謀罪など戦前回帰の動きを強めている。ぜひ野呂栄太郎の時代と現代の状況を多くの人、特に若い人に話してほしい」と訴えました。



### くずさんの 夕張歴史散歩 (106)

#### 明治維新 22 / 朝鮮干渉 ⑥ 戦争ではじまる明治政府

明治政府がはじまって早々に征韓論、征台論がおき、実際に台湾出兵、つづく紅華島事件(朝鮮出兵)が実行されました。(後述)この延長線上での日清戦争になったのです。

#### 日清戦争での日本国内では

時事新報(福沢諭吉創刊)の社説は「日清戦争は文明と野蛮の戦い」と断じ、「人と人、国と国の戦いでなく、文明と野蛮の戦いであり」と論じています。

「人の種がつきるまで」戦えと過激にあおり、「全国一般の人民が誠心誠意、思いを込めたる資金を出して」と軍事資金の募金を訴えたのは、かの福沢諭吉その人でした。そして自ら1万円\*を拠出しています。

しかも彼は、戦いが終わって戦勝に沸く中「日本の国権が大きき上昇し、感涙にむせん。」と泣いて喜んでいました。明治5年2月に早くも「学問のすすめ」を著し、「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらずと言えり」と説いた福沢は、一面では日清戦争の熱烈な推進論者でもあったのです。

また同時期に、内村鑑三も福沢とほぼ同じ戦争観を持っていました。しかし、戦後まもなく「この戦争が所詮は利欲のためのものである」と悟り、自説を反省しています。そして十年後の日露戦争では、敢然と非戦論を主張したのです。しかし諭吉からは、その後反省があつたとは、ついに聞かえてきません。

\* 当時の1万円は、現在の約4000万円に相当します。現在の1万円に、諭吉が印刷されているのは、なんと皮肉な事でしょう。



紙智子「国会かけある記」  
参議院議員  
紙智子

#### 道民本位の政治へ転換のチャンス!

24日、沖縄の辺野古埋め立て新基地建設をめぐる県民投票は、投票率52%を超え、うち72%が反対、知事選で玉城デニー候補が得た得票を超える圧倒的多数が反対を示しました。心から拍手を送りたい。政府は県民の民意を重く受け止め、辺野古埋め立てを中止すべきです。

北海道でも政治的対決軸をめぐる大きな動きがありました。知事選挙で市民と野党の共同候補者が、石川知裕氏に決まったことです。日本共産党道委員会は、「市民の風・北海道」、立憲民主党、国民民主党、社民党などと協議し、石川氏を正式に推薦し勝利に向け全力をあげてたたかうことを表明しました。

憲法9条改憲反対、貧困と格差をなくし雇用を守る。農林水産業・中小企業を大切に、地域経済を守る。特に焦点となるカジノ誘致反対、鉄路を守る、脱原発についても道民に対して反省の言葉が述べられました。

新しい知事を誕生させることができれば、安倍自公政権に代い、道民に苦しみを押つけてきた自公道政を道民本位の政治に転換するチャンスとなるものです。

2月に入り、各地の集いや道議選必勝区での演説会に参加しました。第24回十勝「食と農のつどい」、札幌市北区女性のつどい、旭川市での演説会、小樽市でのつどいと漁業者との懇談、函館市での医療機関と農協訪問など、まったなしとなった統一地方選での完勝へ、必要な課題達成へ頑張ります!